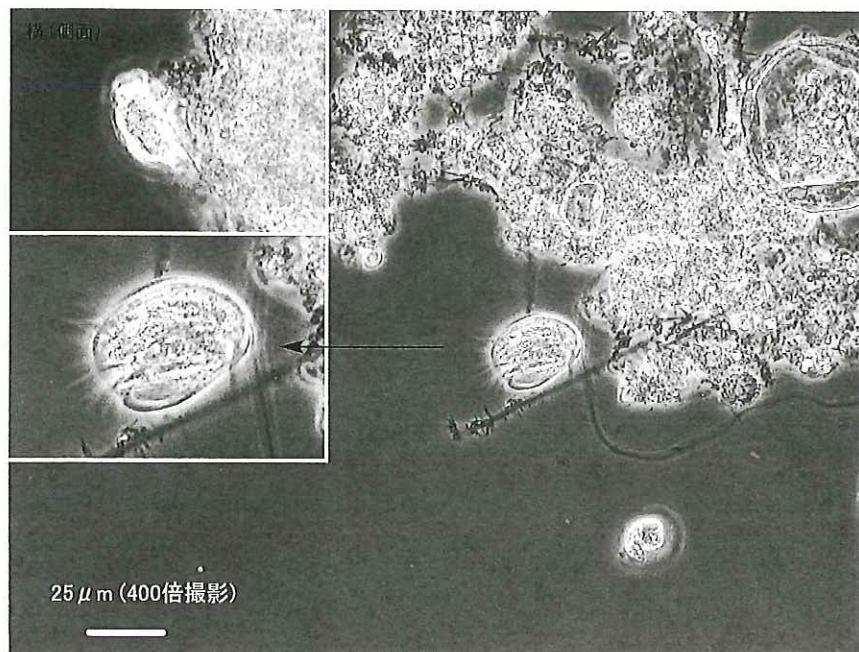


(15) アスピディスカ (*Aspidisca*)

体長の大きさ：30～60 μm

アスピディスカは卵形で、腹面は扁平で背側面には隆起がある。隆起の数は種によって異なり、種によっては隆起が目立たず背面が平らに見えるものもある。外皮は硬く屈伸性はない。虫体腹面に棘毛(きょくもう；繊毛がまとまったとげ状の毛)が分布する。アスピディスカはフロックの上をはいまわりながら、腹面の棘毛でフロック周辺の細菌をかき取り摂食する。

アスピディスカの出現環境は、良好期に向かう頃から解体期まで溶存酸素が十分にあれば観察される。しかし、回分式活性汚泥法などで反応槽底部に溶存酸素不足個所が存在しても、上部に溶存酸素が十分ある個所があれば出現するため注意が必要である。アスピディスカは環境変化に敏感で、溶存酸素が減少すると急激に姿がみられなくなることもある。

